

評価の判定基準例

1 評価の3つの判定基準について

指導要録では、観点別評価の結果について、各教科の目標に照らして、それぞれの評価の観点に対する実現状況を、「十分満足できる」と判断されるものを「A」、「おおむね満足できる」と判断されるものを「B」、「努力を要する」と判断されるものを「C」と、3段階で評価することとしている。

そこで、本書では、指導要録に記入する観点別評価の結果との整合性をはかり、評価の信頼性を高めるために、どのような特徴が見られればA、B、Cと判定されるのかを記述した基準をあらかじめ用意しておくことが望ましいと考え、小単元毎に、A、Bの評価基準の具体例を示している。

実際の評価にあたっては、まず、「おおむね満足できる」状況のBを設定し、その評価規準に照らしてBであるか、Bに満たない「努力を要する」状況のCであるかを判断していく。次に、Bと判断されるもののうち、Bより質的・量的に高まっていると判断されるものを「十分満足できる」状況のAとし、児童1人ひとりの状況を的確にとれていくようとする。その際、A、B、Cのそれぞれの達成状況を適切に評価するために、評価方法についても工夫していかなければならない。

では、Bより質的・量的に高まったAの状況とはどのような学習状況なのか、以下に具体例を示しておく。ただし、Aの状況は、この例をベースに置きながら、児童の発達段階や学校・学級の実態を考慮しながら設定していくことが望ましい。

【算数に対する関心・意欲・態度】

- ～のよさを進んで見いだしている。
- 進んで生活や学習に生かそうとしている。

【数学的な考え方】

- 根拠を明らかにしながら筋道だてて説明している。
- 言葉や数、式、図、表、グラフなどを用いて、簡潔・明瞭・的確に表現している。

- 多様な考えを見いだしている。

- 多様な考えを関連づけて整理している。

- よりよい考え（一般性・発展性など）を追求している。

【数学的な技能】

- ～を（が）確実にできる。
- ～を（が）速く正確にできる。
- ～を用いて工夫してできる。

【数学的な知識・理解】

- ～を確実に理解している。
- ～の感覚を十分にもつている。

2 個々の児童への指導の手立て

目標に準拠した評価においては、実現の状況が不十分な児童に対し、どのような指導を行い、その児童を「おおむね満足できる」状況に導くのかが重要である。そこで、個に応じた指導の充実に向けたチーム・ティーチングや少人数指導などの指導体制の工夫、個別や小集団などの学習形態の工夫などの指導の改善を積極的にはかっていきたい。

さらに、Cと評価した児童については、個のつまずきの状況に応じてスマールステップで補完していく学習の充実によりBに到達するための具体的な支援を、Bと評価した児童については基礎的・基本的な内容のより確実な習得と質的・量的に高まったAに到達するための具体的な支援を、Aと評価した児童には、更なる習熟と課題の発展性を追究し、理解の確実性を高め、数学的な考え方を伸ばすための具体的な支援が重要である。

このように、評価は、その結果が確実に1人ひとりの児童の学習活動に反映されなければならぬし、指導者の学習指導の改善に生かされなければならない。評価とは、こうしたフィードバック機能をもった形成的なものである。

3 単元ごとの具体例

以下では、具体的に各単元での評価例を掲載しているが、前述のとおり、これを1つの例としてとらえ、児童の発達段階や学校・学級の実態を考慮しながら各校、各学級で設定していくことが望ましい。

1 大きな数

小単元	十分満足できる	おおむね満足できる
1 億や兆の位 (○p. 6~10)	<p>関 一億の位までの数の読み方を、既習の数と関連づけて進んで調べようとしている。</p> <p>考 一億の位までの数の読み方を、既習の数の読み方に着目して考え、位取りをもとに読み方を説明している。</p> <p>技 千億や千兆の位までの数を読んだり、表したりすることができる。</p> <p>知 千億や千兆の位までの数の構成や読み方、表し方、及び数を4桁区切りで読むことのよさを確実に理解している。</p>	<p>関 一億の位までの数の読み方を、既習の数と関連づけて調べようとしている。</p> <p>考 一億の位までの数の読み方を、既習の数の読み方に着目して考えている。</p> <p>技 千億や千兆の位までの数を読んだり、表したりできる。</p> <p>知 千億や千兆の位までの数の構成や読み方、表し方、及び数を4桁区切りで読むことのよさを理解している。</p>
2 整数のしくみ (○p. 11~12)	<p>技 億までの数の和や差を既習の加法や減法の計算のしかたを用いて確実に求めることができる。</p> <p>知 ある数を10倍した数や$\frac{1}{10}$にした数の表し方と位の変わり方、及びどんな大きさの数でも0~9の10個の数字を使って表せることや「和」、「差」の用語とそれらの意味を確実に理解している。</p>	<p>技 億までの数の和や差を既習の加法や減法の計算のしかたを用いて求めることができる。</p> <p>知 ある数を10倍した数や$\frac{1}{10}$にした数の表し方と位の変わり方、及びどんな大きさの数でも0~9の10個の数字を使って表せることや「和」、「差」の用語とそれらの意味を理解している。</p>
3 大きな数のかけ算 (○p. 13)	<p>考 3位数×3位数の筆算のしかたを既習事項をもとに考え、一の位から計算すればよいことを順序よく説明している。</p> <p>技 3位数×3位数、4位数×2位数の計算のしかたを理解し、筆算で確実にできる。</p> <p>知 「積」の用語とその意味を確実に理解している。</p>	<p>考 3位数×3位数の筆算のしかたを既習事項をもとに考え、説明している。</p> <p>技 3位数×3位数、4位数×2位数の計算のしかたを理解し、筆算ができる。</p> <p>知 「積」の用語とその意味を理解している。</p>
4 計算の工夫 (○p. 14~15)	<p>考 乗法の計算のしくみや計算のきまりをもとにして、計算を工夫し、工夫した点を根拠をもって説明している。</p> <p>技 乗法の計算を適切に工夫して行うことができる。</p>	<p>考 乗法の計算のしくみや計算のきまりをもとにして、計算を工夫している。</p> <p>技 乗法の計算を工夫して行うことができる。</p>

2 折れ線グラフ

小単元	十分満足できる	おおむね満足できる
1 折れ線グラフの読み方 (●p. 18~21)	<p>関 折れ線グラフが変化のようすを表すのに適していることに関心をもち、進んでその読み取り方を考えようとしている。</p> <p>技 折れ線の傾きに着目し、グラフから変化のようすを確実に読み取ることができる。</p> <p>知 波線を用いて、一部を省略した折れ線グラフの読み取り方を確実に理解している。</p>	<p>関 折れ線グラフが変化のようすを表すのに適していることに関心をもち、その読み取り方を考えようとしている。</p> <p>技 折れ線の傾きに着目し、グラフから変化のようすを読み取ることができる。</p> <p>知 波線を用いて、一部を省略した折れ線グラフの読み取り方を理解している。</p>
2 折れ線グラフのかき方 (●p. 22~23)	<p>関 変化のようすを折れ線グラフに表したり、その変化の特徴を進んで読み取ったりしようとしている。</p> <p>考 2つ以上の折れ線グラフを比較し、その変化の特徴を考え、具体的にグラフを示しながら順序よく説明している。</p> <p>技 折れ線グラフを正しくかつ手際よくかき表すことができる。</p> <p>知 2つ以上の事象の変わり方を1つのグラフ用紙に表すよさを十分に理解している。</p>	<p>関 変化のようすを折れ線グラフに表したり、その変化の特徴を読み取ったりしようとしている。</p> <p>考 2つ以上の折れ線グラフを比較し、その変化の特徴を考え表現している。</p> <p>技 折れ線グラフを正しくかき表すことができる。</p> <p>知 2つ以上の事象の変わり方を1つのグラフ用紙に表すよさを理解している。</p>

3 角度

小単元	十分満足できる	おおむね満足できる
1 角の大きさ (●p. 26~27)	<p>関 角やその大きさなどに関心をもち、具体物を用いて進んで角の大きさを調べようとしている。</p> <p>考 角の大きさを、直角のいくつ分でとらえるしかたを考え、その大きさを説明している。</p> <p>知 回転の量としての角の大きさの意味を確実に理解している。</p>	<p>関 角やその大きさなどに関心をもち、進んで角の大きさを調べようとしている。</p> <p>考 角の大きさを、直角のいくつ分でとらえるしかたを考えている。</p> <p>知 回転の量としての角の大きさの意味を理解している。</p>

<p>2 角度のはかり方 ( p. 28~32)</p>	<p>考 180° より大きな角のはかり方を工夫したり、三角定規の角を組み合わせてできる角の大きさを、和や差として考えたりして、具体的に説明している。</p> <p>技 分度器を用いて角の大きさを確実に手際よく測定することができる。</p> <p>知 分度器のしくみや測定のしかた、角の大きさを表す単位「度」や $1\text{直角}=90^\circ$などの関係を確実に理解している。また、2直線が交わってできる対頂角の性質、三角定規、正三角形の角の大きさを確実に理解している。</p>	<p>考 180° より大きな角のはかり方を工夫したり、三角定規の角を組み合わせてできる角の大きさを、和や差として考えたりしている。</p> <p>技 分度器を用いて角の大きさを測定することができる。</p> <p>知 分度器のしくみや測定のしかた、角の大きさを表す単位「度」や $1\text{直角}=90^\circ$などの関係を理解している。また、2直線が交わってできる対頂角の性質、三角定規、正三角形の角の大きさを理解している。</p>
<p>3 角のかき方 ( p. 33~34)</p>	<p>考 180° より大きな角のかき方を工夫し、その工夫のしかたを説明している。</p> <p>技 分度器を用いて与えられた大きさの角を作図したり、辺の長さや角の大きさが与えられた三角形を作図したりすることができる。</p> <p>知 分度器を用いた角の作図のしかたを確実に理解している。</p>	<p>考 180° より大きな角のかき方を工夫している。</p> <p>技 分度器を用いて与えられた大きさの角を作図したり、辺の長さや角の大きさが与えられた三角形を作図したりすることができる。</p> <p>知 分度器を用いた角の作図のしかたを理解している。</p>

4 わり算の筆算

小単元	十分満足できる	おおむね満足できる
<p>1 (2けた)÷(1けた)の計算 ( p. 38~42)</p>	<p>考 十の位がわりきれない2位数÷1位数の計算のしかたを、各位がわりきれる除法の計算をもとに考え、それを図や式で表現し、説明している。</p> <p>技 2位数÷1位数の計算を筆算で確実にできる。</p> <p>知 2位数÷1位数の計算原理や方法、筆算のしかたを理解している。また、除法の計算において、被除数、除数、商、あまりの間の関係やその用い方を確実に理解している。</p>	<p>考 十の位がわりきれない2位数÷1位数の計算のしかたを、各位がわりきれる除法の計算をもとに考えている。</p> <p>技 2位数÷1位数の計算を筆算でできる。</p> <p>知 2位数÷1位数の計算原理や方法、筆算のしかたを理解している。また、除法の計算において、被除数、除数、商、あまりの間の関係やその用い方を理解している。</p>
<p>2 (3けた)÷(1けた)の計算 ( p. 43~46)</p>	<p>関 3位数÷1位数の計算のしかたを既習事項を用いて進んで考えようとしている。</p> <p>考 被除数の桁数が増えてても、既習の除法の計算のしかたから類推し、計算のしかたを考え、式や筆算をもとに説明している。</p> <p>技 3位数÷1位数の計算を筆算で確実にできる。</p> <p>知 3位数÷1位数の計算原理や方法、筆算のしかたを確実に理解している。</p>	<p>関 3位数÷1位数の計算のしかたを進んで考えようとしている。</p> <p>考 被除数の桁数が増えてても、既習の除法の計算のしかたから類推し、計算のしかたを考えている。</p> <p>技 3位数÷1位数の計算を筆算でできる。</p> <p>知 3位数÷1位数の計算原理や方法、筆算のしかたを理解している。</p>

3 大きな数のわり算 (○p. 47)	技 4位数以上÷1位数の計算を筆算で確実にできる。	技 4位数以上÷1位数の計算を筆算でできる。
4 何倍かを求めるわり算 (○p. 48)	考 テープと数直線の図を用いて一方の量が他方の量の何倍かを求める問題の式を考え、その式の意味を説明している。	考 テープと数直線の図を用いて一方の量が他方の量の何倍かを求める問題の式を考えている。
5 1とみる大きさを求めるわり算 (○p. 49)	考 テープと数直線の図を用いて、何倍かにあたる数と倍を表す数から1とみる大きさを求める問題の式を考え、その式の意味を説明している。	考 テープと数直線の図を用いて、何倍かにあたる数と倍を表す数から1とみる大きさを求める問題の式を考えている。

5 がい数

小単元	十分満足できる	おおむね満足できる
1 がい数 (○p. 54~59)	<p>関 概数の意味や表し方に関心をもち、それについて調べたり、進んで概数を用いて表したりしようとしている。</p> <p>考 概数に表すときに、どの位を四捨五入すればよいかや四捨五入された位に着目し、概数が表す数範囲について考え、数や数直線を用いて説明している。</p> <p>技 数直線上の位置をもとに、大きな数量を概数にしたり、適切な位を四捨五入し、大きな数を概数で表したりすることができる。</p> <p>知 「がい数」の用語とその意味、「上から何けた」で表す概数の意味やその表し方、及び「以上」、「以下」、「未満」の意味や使い方を確実に理解している。</p>	<p>関 概数の意味や表し方に関心をもち、それについて調べたり、概数を用いて表したりしようとしている。</p> <p>考 概数に表すときに、どの位を四捨五入すればよいかや四捨五入された位に着目し、概数が表す数範囲について考えている。</p> <p>技 数直線上の位置をもとに、大きな数量を概数にしたり、適切な位を四捨五入し、大きな数を概数で表したりすることができる。</p> <p>知 「がい数」の用語とその意味、「上から何けた」で表す概数の意味やその表し方、及び「以上」、「以下」、「未満」の意味や使い方を理解している。</p>
2 がい数の計算 (○p. 61~62)	<p>関 問題場面の数値を概数にして計算するよさがわかり、進んで概数を用いて解決しようとしている。</p> <p>考 大きな数の和・差・積・商の見積もりなど、計算の目的をとらえ、数値を必要に応じた概数になおして考え、概数の用い方を説明している。</p> <p>技 大きな数の和・差・積・商の見積もりを概数を用いて確実に計算することができる。</p> <p>知 和・差・積・商の見積もりを、概数を用いて計算するよさを十分に理解している。</p>	<p>関 問題場面の数値を概数にして計算するよさがわかり、概数を用いて解決しようとしている。</p> <p>考 大きな数の和・差・積・商の見積もりなど、計算の目的をとらえ、数値を必要に応じた概数になおして考えている。</p> <p>技 大きな数の和・差・積・商の見積もりを概数を用いて計算することができる。</p> <p>知 和・差・積・商の見積もりを、概数を用いて計算するよさを理解している。</p>

<p>3 がい数の使い方 (○p. 63~65)</p>	<p>考 グラフの1目盛りの大きさをもとに、資料の数量を表す適切な概数を考えたり、場面に応じて、切り上げや切り捨てなどの適切な処理のしかたを考えたりし、具体的に説明している。</p> <p>技 資料の数量を適切な概数にして、棒グラフに表すことや、切り上げや切り捨てを用いて見積もりを求めることが適切かつ確実にできる。</p> <p>知 多めの見積もりや少なめの見積もりが必要となる場面を確実に理解している。</p>	<p>考 グラフの1目盛りの大きさをもとに、資料の数量を表す適切な概数を考えたり、場面に応じて、切り上げや切り捨てなどの適切な処理のしかたを考えたりしている。</p> <p>技 資料の数量を適切な概数にして、棒グラフに表すことや、切り上げや切り捨てを用いて見積もりを求めることができる。</p> <p>知 多めの見積もりや少なめの見積もりが必要となる場面を理解している。</p>
---	--	--

6 小数

小単元	十分満足できる	おおむね満足できる
<p>1 小数の表し方 (○p. 67~70)</p>	<p>関 $\frac{1}{100}$ の位までの小数を既習の小数のしくみに基づいて進んで調べようとしている。</p> <p>考 はしたを表すには、さらに小さな単位をつくればよいことに着目し、図や数を用いて表し説明している。</p> <p>技 かさなどに関する測定値について $\frac{1}{1000}$ 位までの小数で表したり、読んだりすることができる。</p> <p>知 かさなどに関する測定値について、$\frac{1}{1000}$ の位までの小数を用いて表す方法や読み方を確実に理解している。</p>	<p>関 $\frac{1}{100}$ の位までの小数を既習の小数のしくみに基づいて調べようとしている。</p> <p>考 はしたを表すには、さらに小さな単位をつくればよいことに着目している。</p> <p>技 かさなどに関する測定値について $\frac{1}{1000}$ の位までの小数で表したり、読んだりすることができる。</p> <p>知 かさなどに関する測定値について、$\frac{1}{1000}$ の位までの小数を用いて表す方法や読み方を理解している。</p>
<p>2 小数と整数のしくみ (○p. 71~73)</p>	<p>技 $\frac{1}{1000}$ の位までの小数を、単位とする数のいくつ分とみて、加法的に表したり、相対的に表したりすることができる。</p> <p>知 小数は整数と同じように十進数のしくみになっていること、「$\frac{1}{100}$ の位（小数第二位）」、「$\frac{1}{1000}$ の位（小数第三位）」の用語と意味及び小数の大小の比べ方を確実に理解している。</p>	<p>技 $\frac{1}{1000}$ の位までの小数を、単位とする数のいくつ分とみて、加法的に表したり、相対的に表したりすることができる。</p> <p>知 小数は整数と同じように十進数のしくみになっていること、「$\frac{1}{100}$ の位（小数第二位）」、「$\frac{1}{1000}$ の位（小数第三位）」の用語と意味及び小数の大小の比べ方を理解している。</p>

<p>3 小数のたし算 とひき算 (○p. 75~79)</p>	<p>関 $\frac{1}{1000}$ の位までの小数の加法や減法の計算のしかたに関心をもち、意欲的に考えようとしている。</p> <p>考 小数の加法や減法の計算のしかたを既習事項をもとに考え、小数を構成的に表し説明している。</p> <p>技 $\frac{1}{1000}$ の位までの小数の加法や減法の計算を筆算で確実にできる。</p> <p>知 $\frac{1}{1000}$ の位までの小数の加法や減法の計算原理を確実に理解している。</p>	<p>関 $\frac{1}{1000}$ の位までの小数の加法や減法の計算のしかたを意欲的に考えようとしている。</p> <p>考 小数の加法や減法の計算のしかたを既習事項をもとに考えている。</p> <p>技 $\frac{1}{1000}$ の位までの小数の加法や減法の計算を筆算でできる。</p> <p>知 $\frac{1}{1000}$ の位までの小数の加法や減法の計算原理を理解している。</p>
---	---	--

7 垂直、平行と四角形

小単元	十分満足できる	おおむね満足できる
<p>1 垂直 (○p. 82~87)</p>	<p>関 垂直という視点で図形や身のまわりのものの形を見て、進んで調べようとしている。</p> <p>技 垂直な直線を正確に手際よくかくことができる。</p> <p>知 「垂直」の用語とその概念及び垂直な直線のかき方を確実に理解している。</p>	<p>関 垂直という視点で図形や身のまわりのものの形を見ようとしている。</p> <p>技 垂直な直線をかくことができる。</p> <p>知 「垂直」の用語とその概念及び垂直な直線のかき方を理解している。</p>
<p>2 平行 (○p. 88~93)</p>	<p>考 2本の直線の並び方を、ほかの1本の直線との交わり方に着目して考え、その並び方について図を用いて説明している。</p> <p>技 平行な直線を正確に手際よくかくことができる。</p> <p>知 「平行」の用語とその概念、特徴を確実に理解している。</p>	<p>考 2本の直線の並び方を、ほかの1本の直線との交わり方に着目して考えている。</p> <p>技 平行な直線をかくことができる。</p> <p>知 「平行」の用語とその概念、特徴を理解している。</p>
<p>3 台形と平行四辺形 (○p. 94~99)</p>	<p>関 点と点を直線で結び、進んでいろいろな四角形をつくり、分類しようとしたり、台形、平行四辺形を進んで作図しようしたりしている。</p> <p>考 いろいろな四角形を辺の並び方に着目して分類し、台形や平行四辺形の特徴についてまとめ、それぞれの図形についての共通点を説明している。</p> <p>技 2本の平行な直線を用いて、台形や平行四辺形を作図したり、指定された辺の長さや角の大きさの平行四辺形を作図したりすることができる。</p> <p>知 「台形」、「平行四辺形」の用語や定義、及び平行四辺形の性質や作図のしかたを確実に理解している。</p>	<p>関 点と点を直線で結び、いろいろな四角形をつくり、分類しようしたり、台形、平行四辺形を作図しようしたりしている。</p> <p>考 いろいろな四角形を辺の並び方に着目して分類し、台形や平行四辺形の特徴についてまとめている。</p> <p>技 2本の平行な直線を用いて、台形や平行四辺形を作図したり、指定された辺の長さや角の大きさの平行四辺形を作図したりすることができる。</p> <p>知 「台形」、「平行四辺形」の用語や定義、及び平行四辺形の性質や作図のしかたを理解している。</p>

4 ひし形 (●p. 100~101)	<p>考 対辺や対角に着目することで、ひし形の性質を見いだし、三角定規や分度器を用いて調べたことに基づいて説明している。</p> <p>技 ひし形の定義や性質に基づいてひし形を確実に作図することができる。</p> <p>知 「ひし形」の用語や定義、及び定義に基づいた作図のしかたやひし形の性質を確実に理解している。</p>	<p>考 対辺や対角に着目することで、ひし形の性質を見いだしている。</p> <p>技 ひし形の定義や性質に基づいてひし形を作図することができる。</p> <p>知 「ひし形」の用語や定義、及び定義に基づいた作図のしかたやひし形の性質を理解している。</p>
5 対角線 (●p. 103~105)	<p>関 対角線に着目して、基本的な四角形の特徴を進んで見いだそうとしている。</p> <p>考 対角線に着目して、いろいろな四角形の性質をとらえ、それについてそれぞれの四角形の図をもとに説明している。</p> <p>技 対角線を使って、基本的な四角形の作図をすることが確実にできる。</p> <p>知 四角形の「対角線」の用語とその概念、ひし形の対角線の性質を確実に理解している。</p>	<p>関 対角線に着目して、基本的な四角形の特徴を見いだそうとしている。</p> <p>考 対角線に着目して、いろいろな四角形の性質をとらえている。</p> <p>技 対角線を使って、基本的な四角形の作図をすることができる。</p> <p>知 四角形の「対角線」の用語とその概念、ひし形の対角線の性質を理解している。</p>

8 2けたでわる計算

小単元	十分満足できる	おおむね満足できる
1 何十でわる計算 (●p. 110~112)	<p>関 「何十」、「何百何十」÷「何十」の計算のしかたに关心をもち、進んで考えようとしている。</p> <p>考 10を単位としてみて、何十でわる計算のしかたを既習の除法を用いて考え、式や図で表現し説明している。</p> <p>知 「何十」、「何百何十」÷「何十」の計算原理やあまりの大きさの求め方を確実に理解している。</p>	<p>関 「何十」、「何百何十」÷「何十」の計算のしかたを進んで考えようとしている。</p> <p>考 10を単位としてみて、何十でわる計算のしかたを既習の除法を用いて考えている。</p> <p>知 「何十」、「何百何十」÷「何十」の計算原理やあまりの大きさの求め方を理解している。</p>
2 (2けた) ÷ (2けた) の筆算 (●p. 113~116)	<p>関 2位数÷2位数の筆算のしかたに关心をもち、進んで考えようとしている。</p> <p>技 2位数÷2位数の計算を筆算で確実にできる。</p> <p>知 2位数÷2位数の筆算のしかたを理解するとともに、仮商の修正のしかたを確実に理解している。</p>	<p>関 2位数÷2位数の筆算のしかたを進んで考えようとしている。</p> <p>技 2位数÷2位数の計算を筆算でできる。</p> <p>知 2位数÷2位数の筆算のしかたを理解するとともに、仮商の修正のしかたを理解している。</p>
3 (3けた) ÷ (2けた) の筆算 (●p. 118~119)	<p>技 3位数÷2位数の計算を筆算で確実にできる。</p>	<p>技 3位数÷2位数の計算を筆算でできる。</p>

4 大きな数のわり算の筆算 (●p. 120)	<p>技 4位数÷2, 3位数, 3位数÷3位数の計算が筆算で確実にできる。</p>	<p>技 4位数÷2, 3位数, 3位数÷3位数の計算が筆算でできる。</p>
5 わり算のきまり (●p. 121~122)	<p>技 除法に関して成り立つ性質を活用して計算を工夫したり, あまりの大きさを正しくとらえたりすることが確実にできる。</p> <p>知 除法に関して成り立つ性質を理解している。</p>	<p>技 除法に関して成り立つ性質を活用して計算を工夫したり, あまりの大きさを正しくとらえたりすることができる。</p> <p>知 除法に関して成り立つ性質を理解している。</p>

9 式と計算

小単元	十分満足できる	おおむね満足できる
1 ()のある式 (●p. 124~127)	<p>関 2段階の構造（加法, 減法）の問題を, 進んで1つの式に表し, そのよさを考えようとしている。</p> <p>考 ()を用いて, 2段階の構造（加法, 乗法）の問題を1つの式に簡潔に表す方法や計算の順序を考え, 立式の意味をことばの式をもとに説明している。</p> <p>知 2段階の構造（加法, 減法）の問題を, ()を用いて1つの式に簡潔に表す方法や計算の順序を確実に理解している。</p>	<p>関 2段階の構造（加法, 減法）の問題を, 進んで1つの式に表そうとする。</p> <p>考 ()を用いて, 2段階の構造（加法, 乗法）の問題を1つの式に簡潔に表す方法や計算の順序を考えている。</p> <p>知 2段階の構造（加法, 減法）の問題を, ()を用いて1つの式に簡潔に表す方法や計算の順序を理解している。</p>
2 +, -と×, ÷のまじった式 (●p. 128~129)	<p>技 数量の関係を四則混合法式に表し計算したり, ()を用いた四則混合法式を計算したりすることができる。</p> <p>知 四則混合法式の意味や計算の順序を確実に理解している。</p>	<p>技 数量の関係を四則混合法式に表し計算したり, ()を用いた四則混合法式を計算したりすることができる。</p> <p>知 四則混合法式の意味や計算の順序を理解している。</p>
3 計算のきまり (●p. 130~131)	<p>考 分配法則の意味を図や式を使って考え, 説明している。</p> <p>技 分配法則や既習の計算法則を適切に活用し, 工夫して計算することができる。</p> <p>知 整数で成り立つ分配法則の意味を確実に理解している。</p>	<p>考 分配法則の意味を図や式を使って考えている。</p> <p>技 分配法則や既習の計算法則を活用し, 工夫して計算することができる。</p> <p>知 整数で成り立つ分配法則の意味を理解している。</p>

10 面積

小単元	十分満足できる	おおむね満足できる
1 広さの表し方 (○p. 134~138)	<p>関 広さ比べに関心をもち、比べ方を進んで考えようとしている。</p> <p>考 長さや重さでの比べ方を生かして、数値化して比べる方法を考え、具体的に説明している。また、いろいろな图形の面積を 1 cm^2 の大きさをもとにして、図などを用いて順序よく説明している。</p> <p>技 決められた面積になるような图形について、様々な工夫した形を含めていろいろと作図できる。</p> <p>知 面積について、単位と測定の意味を確実に理解している。</p>	<p>関 広さ比べに関心をもち、比べ方を考えようとしている。</p> <p>考 長さや重さでの比べ方を生かして、数値化して比べる方法を考えている。また、いろいろな图形の面積を 1 cm^2 の大きさをもとにして、説明している。</p> <p>技 決められた面積になるような图形を、いろいろと作図できる。</p> <p>知 面積について、単位と測定の意味を理解している。</p>
2 長方形と正方形の面積 (○p. 139~142)	<p>考 長方形や正方形の面積は辺の長さを用いて計算で求められることを考え、説明している。また、複合图形の求積方法を多様に見いだし、図や式、言葉を用いて相互に関連づけながら説明している。</p> <p>技 長方形の求積公式を用いて、長方形の面積と一方の辺の長さから、もう一方の辺の長さを求めたり、複合图形を、長方形に分割するなどして、面積を求めたりすることが確実にできる。</p> <p>知 長方形や正方形の求積公式を確実に理解している。</p>	<p>考 長方形や正方形の面積は辺の長さを用いて計算で求められることを考えている。また、複合图形の求積方法を図や式、言葉を用いて説明している。</p> <p>技 長方形の求積公式を用いて、長方形の面積と一方の辺の長さから、もう一方の辺の長さを求めたり、複合图形を、長方形に分割するなどして、面積を求めたりすることができる。</p> <p>知 長方形や正方形の求積公式を理解している。</p>
3 いろいろな面積の単位 (○p. 143~147)	<p>関 いろいろな面積の単位に興味・関心をもち、その広さに対して適切な単位を用いるよさに気づいている。また、面積を調べることのたのしさやよさに気づき、進んで生活や学習に活用しようとしている。</p> <p>考 いろいろな面積の単位どうしの関係を正方形の辺の長さに着目して考え、図や表を用いて説明している。</p> <p>知 単位「m^2」、「km^2」、「a」、「ha」の意味や単位どうしの関係を確実に理解している。また、面積を計算によって求めるためには、長さの単位をそろえる必要があることを確実に理解している。</p>	<p>関 いろいろな面積の単位に興味・関心をもち、その広さに対して適切な単位を用いるよさに気づいている。また、面積を調べることのたのしさやよさに気づき、生活や学習に活用しようとしている。</p> <p>考 いろいろな面積の単位どうしの関係を正方形の辺の長さに着目して考えている。</p> <p>知 単位「m^2」、「km^2」、「a」、「ha」の意味や単位どうしの関係を理解している。また、面積を計算によって求めるためには、長さの単位をそろえる必要があることを理解している。</p>

11 整理のしかた

小単元	十分満足できる	おおむね満足できる
1 整理のしかた (p. 152~155)	<p>関 どのような観点で分類整理したらよいか考え、落ちや重なりがないように資料を整理し、進んで表にまとめようとしている。</p> <p>考 資料を2つの観点から分類整理して表に表し、資料の特徴について考え、表を用いて具体的に説明している。</p> <p>技 資料を2つの観点から落ちや重なりがないように「正」の字を用いて分類整理し、表に表すことが確実にできる。</p> <p>知 2つの観点で資料を整理すると、その事象の特徴を詳しくとらえられることを確実に理解している。</p>	<p>関 どのような観点で分類整理したらよいか考え、落ちや重なりがないように資料を整理し、表にまとめようとしている。</p> <p>考 資料を2つの観点から分類整理して表に表し、資料の特徴について考え、説明している。</p> <p>技 資料を2つの観点から落ちや重なりがないように「正」の字を用いて分類整理し、表に表すことができる。</p> <p>知 2つの観点で資料を整理すると、その事象の特徴を詳しくとらえられることを理解している。</p>

12 変わり方

小単元	十分満足できる	おおむね満足できる
1 変わり方と表、式 (p. 157~161)	<p>考 ともなって変わる2つの数量の関係を見つけるとき、一方を順序よく規則的に変え、それに対応するもう一方の数量の変わり方に着目し、表を用いて説明している。</p> <p>技 ともなって変わる2つの数量の関係を表に表したり、○、△を用いた式に表したりすることが確実にできる。</p> <p>知 ともなって変わる2つの数量の関係を調べるときは、表や式を用いるとよいことを確実に理解している。</p>	<p>考 ともなって変わる2つの数量の関係を見つけるとき、一方を順序よく規則的に変え、それに対応するもう一方の数量の変わり方に着目している。</p> <p>技 ともなって変わる2つの数量の関係を表に表したり、○、△を用いた式に表したりすることができる。</p> <p>知 ともなって変わる2つの数量の関係を調べるときは、表や式を用いるとよいことを理解している。</p>
2 変わり方とグラフ (p. 162)	<p>関 ともなって変わる2つの数量をグラフに表し、その関係をグラフの特徴をもとに進んで調べようとしている。</p> <p>考 折れ線グラフを読み、関数的な関係にある2つの数量の変化の特徴を多様に考え、言葉を用いてその特徴を表現している。</p> <p>技 ともなって変わる2つの数量の関係を折れ線グラフに表すことが確実にできる。</p>	<p>関 ともなって変わる2つの数量をグラフに表し、その関係を調べようとしている。</p> <p>考 折れ線グラフを読み、関数的な関係にある2つの数量の変化の特徴を考え、表現している。</p> <p>技 ともなって変わる2つの数量の関係を折れ線グラフに表すことができる。</p>

13 小数と整数のかけ算・わり算

小単元	十分満足できる	おおむね満足できる
1 小数×整数 (○p. 174~179)	<p>閑 純小数 ($\frac{1}{10}$の位) × 整数 (1位数) の意味や計算のしかたを整数の乗法と関連づけて進んでとらえようとしている。</p> <p>考 純小数 ($\frac{1}{10}$の位) × 整数 (1位数) の計算のしかたについて、小数を0.1を単位にしてみるとことにより、整数の乗法に帰着して考え、数直線図や式などを適切に用いて説明している。</p> <p>技 小数×整数の計算が筆算で確実にできる。</p> <p>知 小数×整数の意味や計算原理、方法、筆算のしかたを確実に理解している。</p>	<p>閑 純小数 ($\frac{1}{10}$の位) × 整数 (1位数) の意味や計算のしかたを整数の乗法と関連づけてとらえようとしている。</p> <p>考 純小数 ($\frac{1}{10}$の位) × 整数 (1位数) の計算のしかたについて、小数を0.1を単位にしてみるとことにより、整数の乗法に帰着して考え、説明している。</p> <p>技 小数×整数の計算が筆算でできる。</p> <p>知 小数×整数の意味や計算原理、方法、筆算のしかたを理解している。</p>
2 小数÷整数 (○p. 181~184)	<p>考 帯小数 ($\frac{1}{10}$の位) ÷ 整数 (1位数) の計算のしかたについて、小数を0.1を単位にしてみるとことにより、整数の除法に帰着して考え、数直線図や式などを適切に用いて説明している。</p> <p>技 小数÷整数の計算が筆算で確実にできる。</p> <p>知 小数÷整数の意味や計算原理、方法、筆算のしかたを確実に理解している。</p>	<p>考 帯小数 ($\frac{1}{10}$の位) ÷ 整数 (1位数) の計算のしかたについて、小数を0.1を単位にしてみるとことにより、整数の除法に帰着して考えている。</p> <p>技 小数÷整数の計算が筆算でできる。</p> <p>知 小数÷整数の意味や計算原理、方法、筆算のしかたを理解している。</p>
3 あまりのあるわり算 (○p. 185~186)	<p>技 小数÷整数あまりを求めたり、答えの確かめをしたりすることができる。</p> <p>知 小数÷整数あまりの小数点は、被除数の小数点にそろえてうつことを確実に理解している。</p>	<p>技 小数÷整数あまりを求めたり、答えの確かめをしたりすることができる。</p> <p>知 小数÷整数あまりの小数点は、被除数の小数点にそろえてうつことを理解している。</p>
4 わり込みの計算 (○p. 187~188)	<p>技 整数÷整数で、わり込んで商が小数になる場合の計算を筆算で確実にできる。また、整数÷整数や小数÷整数で、必要とする位までわりきれない場合に、商を四捨五入して概数で表すことが確実にできる。</p> <p>知 小数÷整数で、わり込んで商が小数になる場合の筆算のしかたを確実に理解している。</p>	<p>技 整数÷整数で、わり込んで商が小数になる場合の計算を筆算でできる。また、整数÷整数や小数÷整数で、必要とする位までわりきれない場合に、商を四捨五入して概数で表すことができる。</p> <p>知 小数÷整数で、わり込んで商が小数になる場合の筆算のしかたを理解している。</p>
5 小数と倍 (○p. 190~191)	<p>技 除法を用いて、小数倍を求めることが確実にできる。</p> <p>知 何倍かを表すときに、小数を用いることがあることを確実に理解している。</p>	<p>技 除法を用いて、小数倍を求めることができる。</p> <p>知 何倍かを表すときに、小数を用いることがあることを理解している。</p>

★くらべ方	知 2組の数量の関係を比べるときに、倍を使うとよい場合があることを確実に理解している。	知 2組の数量の関係を比べるときに、倍を使うとよい場合があることを理解している。
--------------	--	---

14 分数

小単元	十分満足できる	おおむね満足できる
1 分数の表し方 (p. 193~195)	<p>考 分数で表された2量の和が1を超える具体的な場面で、2量の和を既習の分数の表し方をもとに考えたり、仮分数と帯分数の相互変換の方法を考えたりし、図や式などを用いて説明している。</p> <p>技 仮分数と帯分数の相互変換が確実にできる。</p> <p>知 「真分数」、「仮分数」、「帯分数」の用語とそれらの意味や表し方及び仮分数と帯分数の相互変換の方法を確実に理解している。</p>	<p>考 分数で表された2量の和が1を超える具体的な場面で、2量の和を既習の分数の表し方をもとに考えたり、仮分数と帯分数の相互変換の方法を考えたりしている。</p> <p>技 仮分数と帯分数の相互変換ができる。</p> <p>知 「真分数」、「仮分数」、「帯分数」の用語とそれらの意味や表し方及び仮分数と帯分数の相互変換の方法を理解している。</p>
2 大きさの等しい分数 (p. 196~197)	<p>技 数直線をもとに、大きさの等しい分数を見つけることが確実にできる。</p> <p>知 分母が異なる分数でも、大きさの等しい分数があることを確実に理解している。</p>	<p>技 数直線をもとに、大きさの等しい分数を見つけることができる。</p> <p>知 分母が異なる分数でも、大きさの等しい分数があることを理解している。</p>
3 分数の大小 (p. 198~199)	<p>考 同分子分数の大小は、分数を数直線上に表せば比べられると考え、数直線や図、分数の意味をもとに説明している。</p> <p>技 大きさの等しい分数を見つけたり、同分子どうし、同分母どうしの分数の大小比較をしたりすることができる。</p> <p>知 同分子の真分数や仮分数の大小の比べ方や、同分母の仮分数や帯分数の大小の比べ方を確実に理解している。</p>	<p>考 同分子分数の大小は、分数を数直線上に表せば比べられると考えている。</p> <p>技 大きさの等しい分数を見つけたり、同分子どうし、同分母どうしの分数の大小比較をしたりすることができる。</p> <p>知 同分子の真分数や仮分数の大小の比べ方や、同分母の仮分数や帯分数の大小の比べ方を理解している。</p>
4 分数のたし算とひき算 (p. 200~203)	<p>考 同分母分数の加法や減法の計算のしかたを既習の計算方法から類推的に考えたり、分数のしくみや減法の意味をもとに考えたりし、式に表し説明している。</p> <p>技 同分母分数の加法や減法の計算が確実にできる。</p>	<p>考 同分母分数の加法や減法の計算のしかたを既習の計算方法から類推的に考えたり、分数のしくみや減法の意味をもとに考えたりしている。</p> <p>技 同分母分数の加法や減法の計算ができる。</p>

15 直方体と立方体

小単元	十分満足できる	おおむね満足できる
1 直方体と立方体 (○p. 205~207)	<p>関 箱の形に興味・関心をもち、進んでその特徴を調べ、明らかにしようとしている。</p> <p>考 箱の形を、構成している面の形に着目して分類したり、直方体や立方体の構成要素の数、面の形などの特徴を見いだしたりし、具体物を用いて説明している。</p> <p>技 直方体や立方体の頂点、辺、面の特徴を確実に指摘できる。</p> <p>知 「直方体」、「立方体」の用語とそれらの定義を確実に理解している。</p>	<p>関 箱の形に興味・関心をもち、進んでその特徴を調べようとしている。</p> <p>考 箱の形を、構成している面の形に着目して分類したり、直方体や立方体の構成要素の数、面の形などの特徴を見いだしたりしている。</p> <p>技 直方体や立方体の頂点、辺、面の特徴を指摘できる。</p> <p>知 「直方体」、「立方体」の用語とそれらの定義を理解している。</p>
2 展開図 (○p. 208~211)	<p>考 辺や面のつながりや位置関係に着目して展開図のかき方を考え、それを直方体、立方体や図を用いて説明している。</p> <p>技 直方体や立方体の展開図を確実にかくことができる。</p> <p>知 直方体や立方体の展開図の読み取り方を確実に理解している。</p>	<p>考 辺や面のつながりや位置関係に着目して展開図のかき方を考えている。</p> <p>技 直方体や立方体の展開図をかくことができる。</p> <p>知 直方体や立方体の展開図の読み取り方を理解している。</p>
3 面や辺の垂直と平行 (○p. 212~214)	<p>考 直方体の面と面、辺と辺、面と辺の垂直、平行関係を見いだし、それを直方体を用いて具体的に説明している。</p> <p>知 直方体の面と面、辺と辺、面と辺の垂直、平行関係を確実に理解している。</p>	<p>考 直方体の面と面、辺と辺、面と辺の垂直、平行関係を見いだしている。</p> <p>知 直方体の面と面、辺と辺、面と辺の垂直、平行関係を理解している。</p>
4 見取図 (○p. 215)	<p>技 直方体や立方体の見取図を確実にかくことができる。</p>	<p>技 直方体や立方体の見取図をかくことができる。</p>
5 位置の表し方 (○p. 216~217)	<p>知 平面上の点の位置は、横、縦の2つの長さで決まることや、空間にある点の位置は、横、縦、高さの3つの長さで決まることを確実に理解している。</p>	<p>知 平面上の点の位置は、横、縦の2つの長さで決まることや、空間にある点の位置は、横、縦、高さの3つの長さで決まることを理解している。</p>